

令和6年度 国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費
(我が国の国際標準化戦略を強化するための体制構築)
消費者への標準化に関する普及啓発活動
実施報告

(公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
標準化事業実行委員会

令和6年度の経済産業省委託事業「国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費（我が国の国際標準化戦略を強化するための体制構築）消費者への標準化に関する普及啓発活動」では、9回の標準化セミナーと3支部による標準化のタネ探し（消費者視点の標準化提案）等を実施した。以下、各普及啓発活動の成果について概要を報告する。

I. 標準化セミナー

1. 標準化セミナー（活用講座） 主催：北海道支部
2. 標準化セミナー（弘前大学） 主催：東北支部
3. 標準化セミナー（淑徳大学） 主催：東日本支部
4. 標準化セミナー（東京分科会） 主催：東日本支部
5. 標準化セミナー（中部大学） 主催：中部支部
6. 標準化セミナー（鳴門教育大学） 主催：西日本支部
7. 標準化セミナー（広島経済大学） 主催：中国支部
8. 標準化セミナー（鳥取環境大学） 主催：中国支部
9. 標準化セミナー（鹿児島） 主催：九州支部

II. 標準化のタネ探し（消費者視点の標準化提案）

1. 東北支部 避難施設・設備・災害用備蓄品の標準化 ～段ボールベッドの組立て方～
2. 西日本支部 古着回収システムの標準化～消費者視点のサステナブルファッション～
3. 九州支部 アルコール飲料と非アルコール飲料の誤飲事故を防ぐための方策

I. 標準化セミナー

1. 標準化セミナー（活用講座） 主催：北海道支部

対 象：NACS 北海道支部会員

日 時：2024年12月7日（土）14:00～17:00

場 所：札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階 消費者サロン1・2（対面方式）

参加者：8名

<プログラム>

1. 開会挨拶（5分）
2. 標準化セミナー①（標準化の基本を理解）（35分）
3. ワークショップ（4名×2グループ）（40分）
4. ワークショップの発表（10分）各グループ代表者（休憩）
5. 標準化セミナー②（東北支部の活動・取り組み事例紹介）（35分）
6. 標準化セミナー③（ファシリテーションのコツ）（25分）
7. 意見交換（20分）

2. 標準化セミナー（弘前大学） 主催：東北支部

対 象：国立大学法人 弘前大学 全学部 2,3,4年生

（医学部医学科・医学部保健学科・人文社会学課・理工学部・教育学部）

日 時：2024年7月11日（木）10:20～11:50

場 所：弘前大学 総合教育棟 講義室（対面方式）

参加者：19名

<プログラム>

講義：40分

1. 消費者志向経営に必要な標準化とは
2. 法令順守と消費者サービス
3. 脆弱な消費者への標準化の必要性

ワークショップ：40分

- ・5つのグループに分かれ標準化のテーマを検討し、選定理由を討議
- ・各グループ代表から発表

まとめ：10分

3. 標準化セミナー（淑徳大学） 主催：東日本支部

対 象：淑徳大学コミュニティ政策学部 日野ゼミ 3年生

日 時：①令和6年11月18日（月）13:00～14:30

②令和6年11月25日(月)13:00~14:30

場 所 : 淑徳大学(千葉県千葉市)(対面方式)

参 加 者 : ①12名(男性8名、女性4名) ②11名(男性6名、女性5名)

<プログラム>

【第1回】

- 挨拶・NACSメンバー自己紹介
- 講義 「標準化とは」
- 全体セッション
テーマ: 昨年出たタネ「エレベータのボタンの標準化」をもとに実現に向けたメリット、デメリットについて全体討議を実施
- 次週(11/25)カリキュラムについて説明
- テーマ別に3つのグループに分け、役割分担を決める
・A・B: サービス関係 C: SDGs 関係
- 日野先生 講評

【第2回】

- オリエンテーション
- グループでアイスブレイク
- グループディスカッション①
- 発表①
- グループディスカッション②
- 発表②
- 日野先生 講評 アンケート協力依頼

4. 標準化セミナー(東京分科会) 主催: 東日本支部

対 象 : 東日本支部会員

日 時 : 令和7年2月10日(月)19:00~20:00

場 所 : オンライン講座方式(Zoom)

参 加 者 : 20名(東京9、神奈川4、千葉3、長野2、新潟1、栃木1)

<プログラム>

- 挨拶
- 講義 「標準化とは」
 - ①規格について(標準化とは何か、標準化の種類、JIS規格制定までの基本の流れ)
 - ②身の回りにある標準化
 - ③これからの標準化、私たちと標準化
- NACSと標準化(NACSの取り組み事例紹介)
- まとめと総評

5. 標準化セミナー（中部大学）主催：中部支部

対 象：中部大学 経営情報学部「経営環境」講座 受講学生 127名(内17名他学部等)

日 時：(前半) 2024年12月11日(水) 11:15～12:45 (90分)

(後半) 2024年12月18日(水) 11:15～12:45 (90分)

場 所：中部大学 経営情報学部 2215 教室(対面方式)

参 加 者：学生 対面参加110名 オンデマンド参加17名

講師 3名(中部大学准教授・名古屋市課長補佐・NACS 担当)

NACS ファシリテーター 8名・コメンテーター 9名・名古屋市1名 合計148名

<プログラム>

中部大学経営情報学部『経営環境』カリキュラム全15コマの内、12コマ目(前半)と13コマ目(後半)を活用し開催する。各コマとも伊藤准教授(90分)のカリキュラムの一部として開催する。

※名古屋市 課長補佐が講義とグループワーク、担当がグループ発表会に参加

※ねらい：①標準化についての受講生の理解を深める。

②標準化のためにできることは何かについて考えて頂く。

③消費者視点による標準化のたねを探し、標準化することによる課題解決方法と期待される効果を検討する

(前半) 12月11日(水) 11:15～12:45 (90分)

第1部…講義 (30分)

「消費者と標準化」の関係、「今回の講義とセミナーの意義」等 講師：伊藤准教授(中部大学)

「名古屋市におけるエシカル消費の普及と啓発事業について」 講師：名古屋市 課長補佐

「～標準化って何だろう?～あなたの知らない標準化の世界」概要 講師：NACS 担当

第2部…グループワーク (60分) <29グループに分かれて>

「消費者視点での標準化のタネ探し」グループワークについて

(グループワークの進め方説明) 解説：NACS 担当

グループワーク……標準化のタネ探しと課題解決策のグループミーティング

(ファシリテーターとしてNACS 会員と名古屋市課長補佐が参加)

(後半) 12月18日(水) 11:15～12:45 (90分)

第1部…グループワーク (8分) <29グループに分かれて>

本日のセミナーについて・セミナーの説明(伊藤准教授・NACS)

グループワークにてタネ探しワークシートの確認・完成

グループ発表用ワークシートの発表者決定など

第2部…グループ発表会 (82分)

グループ代表発表……29のグループ代表が順次発表(各2分以内)

発表へのコメント……コメンテーター(NACS 会員)がコメント

発表内容への評価……コメンテーターと受講者全員で評価

全体講評……………伊藤准教授（中部大学）・名古屋市 担当
（終了後別途に）発表評価結果集計・まとめなど … 伊藤准教授・NACS スタッフ

6. 標準化セミナー（鳴門教育大学） 主催：西日本支部

対 象： 鳴門教育大学 学生と大学院生（「家庭経営学概論」履修者）
日 時： 令和6年11月11日（月）14：40～16：10
場 所： 鳴門教育大（徳島県鳴門市）（対面方式）
参 加 者： 9名（男性2名、女性7名）

<プログラム>

1. 情報提供（14：40～15：10）
「子どもの安全と標準化のタネ～もっと安全で便利なくらしについて考えよう！」
2. グループ討議（15：10～16：00）
「標準化のタネを探してみよう」
ワークショップ形式で4～5名×2グループ

7. 標準化セミナー（広島経済大学）主催：中国支部

対 象： 広島経済大学経営学部経営学科3回生（岡本康昭教授ゼミ生）
日 時： 2024年10月17日（木）10：45～12：15
方 法： 広島経済大学アカデミック・コモンズ 明德館（対面方式）
参 加 者： 15名

<プログラム>

- ・第1部：講義
 - ①「もっと安全で便利な暮らしについて考えよう！」
 - ②「標準化とビジネス～企業から見た標準化～」
- ・第2部：グループ討議「『標準化のタネ』を探そう」
それぞれが事前に考えていたタネを発表し、グループ討議実施
グループ毎に標準化のタネを発表

8. 標準化セミナー（鳥取環境大学）主催：中国支部

対 象： 公立鳥取環境大学経営学部1,2回生（磯野プロジェクト研究受講生）
日 時： 2024年12月12日（木）14：40～16：10
場 所： 鳥取環境大学（対面方式）
参 加 者： 14名

<プログラム>

- ・第1部：講義

- ①「もっと安全で便利な暮らしについて考えよう！」
- ②「標準化とビジネス～企業から見た標準化～」
- ・第2部：グループ討議「『標準化のタネ』を探そう」
それぞれが事前に考えていたタネを発表し、グループ討議実施
グループ毎に標準化のタネを発表

9. 標準化セミナー（鹿児島） 主催：九州支部

対 象： 一般市民

日 時： 2025年 1月 18日（土） 13:00～15:30

場 所： かごしま国際交流センター 研修室2 （対面方式）

参 加 者： 17名（参加者一般11名 NACS 2名 スタッフ4名）

<プログラム>

チェックイン（アイスブレイク） ①自己紹介 ②他己紹介 ③ワークショップのネライ

第1部 講義「標準化について（概説）」

第2部 グループワークと発表

チェックアウト ①研修に期待したことの棚卸しと、明日からでもやってみたいこと

②セミナーで学んだ自分が貢献した社会の未来を想像する

II. 標準化のタネ探し（消費者視点の標準化提案）

1. 東北支部

テーマ：避難施設・設備・災害用備蓄品の標準化 ～段ボールベッドの組立て方～

<テーマ選定の経緯>

能登半島地震とその後の豪雨災害など近年は災害が多発しており、災害発生の際に避難所で生活する方々の問題や課題を報道で知る機会が多くなっている。避難所生活に存在する問題を消費者（生活者）視点で調査して、バラバラなことを標準化すべく、しくみや規則等の課題を提起してテーマとした。

<調査概要>

①調査対象が広範囲なため対象を絞り込む方法として、「スフィア基準」と「被災者支援の適切な実施」（令和5年内閣府発出）の項目に沿って確認を進めた。

②調査対象

抽出した調査対象から、簡易ベッド（段ボールベッド）に調査を絞った。

■メンバーが各自興味を持った項目

避難所のスペース、避難所の運営体制、避難所の衛生面の維持と管理、温かい食事の提供、トイレの十分な確保と適切な管理、簡易ベッド・毛布の導入、冷暖房の確保、配慮が必要な方の対応（高齢者・障がい者・女性・乳幼児・オストメイト等の排泄障がい）、プライバシー保護、ペット対応、被災者自らの情報収集の手段

■東北支部で追加した独自の視点

外国人避難者、ムスリム、性的マイノリティ

<結論>

各自治体は災害発生時、相互に協力・応援する協定を結んでいるが、災害現場実務において『段ボールベッドの組立て方』がバラバラなので、組立て方を標準化すべきである。

（理由）

- ・段ボールベッドの組立標準化によって、自治体毎の防災訓練の実績が協定を結んだ被災自治体で活かせる。
- ・被災地に入りボランティア活動を行う人にとって、段ボールベッドの組立てに要する時間（熟練者で15分/台）を減らすことができ、避難所の他の行動に時間を使うことに繋がる。
- ・段ボールベッドの仕様を集約的に見直すことで、製造コスト削減が見込まれる。
- ・各社バラバラな仕様を統一しコンパクト化を目指すことで、保管場所の容量削減効果が期待できる。
- ・仕様・規格を統一することにより段ボール原料である板紙の使用量の削減が期待できる（昨今は

紙からデジタルへの移行によって生じる古紙不足が指摘されている)。

<今後の方針>

石破首相の所信表明（今年1月24日）において、令和8年度中に防災庁を設置することと、災害発生時には、前述の国際基準のスフィア基準を踏まえた環境を迅速に提供する旨の方針が示された。次年度も現在のテーマ取り組みを継続し、更に別の問題を掘り下げながら防災についての提起が標準化に繋がるようなタネ探し活動を継続したい。

2. 西日本支部

テーマ：古着回収システムの標準化～消費者視点のサステナブルファッション～

<テーマ選定の経緯>

近年、ファッション産業における大量生産・大量消費・大量廃棄に伴う環境負荷の課題が強く認識され、世界各国（特にEU）ではサステナブルファッションへの対応が進められていることに注目して、繊維製品のライフサイクルにおいて静脈産業ともいえる、「古着回収システム」に焦点を絞り、標準化のタネ探しのテーマとした。また、サステナブルファッションは、SDGs、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの実現を目指す社会の要請であり、NACSとして消費者視点から課題と判断した。

<調査概要>

当支部は、3ヶ年計画でこのテーマに取り組み、店頭回収（2022年度）と自治体回収（2023年度）に関する調査に続き、今年度は回収システムの最終段階に位置する故繊維（不要になった中古衣類を含む廃繊維製品類）業者及び、環境省・神戸市の実証事業や独自の取り組みで設置された回収BOXの状況を調査することにより、タネ探しのまとめ（最終年度）とした。

(1) 故繊維業者の工場見学と意見交換

有限会社田代商店（香川県善通寺市、1968年設立）、2024年8月27日視察

(2) 環境省及び神戸市における実証事業の検証

①「oHOHoCYCLEPROJECT(オホホサイクルプロジェクト)“みんな微笑む『すてない』未来へ“」

2024年度環境省モデル実証事業

②「RELEASE⇄CATCH(リリース・キャッチ)」創出のための実証事業

2023年度環境省モデル実証事業

③使用済み衣服の広域回収&循環プロジェクト『KURU KURU Fashion Project』

2023年度環境省モデル実証事業

④衣類回収サービス「する一ふ」(CO+CREATION KOBE Project：神戸市民間提案型事業促進制度)

(3) 回収BOXの事例収集

①大丸梅田店

②高島屋大阪店

③玉川高島屋S・C

④その他：MUJI、ユニクロ、ニトリ、さくらや（学生服リユース）、無人回収ステーション、徳島市、小松島市、アジサーキュラーパーク（古着交換）、SC内の食品スーパーの回収BOX

<結論>

古着回収システムにおける標準化のタネとして、①リサイクルマーク、②故繊維業者のサービス認証の2点を挙げることにした。

(理由)

- ・統一のリサイクルマークを表示することで、消費者の認知度が高まり、資源として適切に回収し、利用することが可能になる。
- ・回収品の受け皿がない地域が多いため、優良なサービスを提供する故繊維業者の育成が必要である。

ただし、その実現には、プラスチック容器包装におけるリサイクル法のようなEPR（拡大生産者責任）の考え方に基づく仕組みの導入及び、回収後のリユース・リサイクル需要の拡充や技術的な課題解決が前提条件となる。

<今後の方針>

今回のテーマは今年度で終了とし、新たなテーマの選定を行いたい。標準化のタネ探しは、NACSの主要活動分野の一つである「行政・企業・消費者団体等との連携」を具現化する取り組みであり、可能な限り継続できればと考えている。

3. 九州支部

テーマ：アルコール飲料と非アルコール飲料の誤飲事故を防ぐための方策

<テーマ選定の経緯>

産業標準化推進月間に合わせて消費者から、アルコール飲料と、非アルコール飲料の違いがわかりにくいという意見が寄せられた。そこで、アルコール飲料の誤飲事故を標準化で防止する可能性を探るために本テーマを選定した。消費者からの意見は、缶や瓶入りのアルコール飲料が清涼飲料水と間違しやすいというものであったが、飲食店でもアルコール飲料とノンアルコール飲料、ソフトドリンクとの飲み間違い事故が起きているため、飲食店における誤飲防止策も併せて調査を行った。

<調査概要>

(1) 容器入りアルコール飲料と非アルコール飲料の誤認防止に関する調査

- ① 容器に関する規制・基準の調査
- ② 現物調査
- ③ 事故事例調査
 - I 事故情報データベースの事故事例
 - II 消費者アンケート

(2) 飲食店で提供されるアルコール飲料

- ① 事故事例調査
 - I 事故情報データベースの事故事例
 - II 消費者アンケート
- ② 現状調査

<結論：消費者としての意見>

① 容器入りアルコール飲料と非アルコール飲料の誤認防止に関する調査

消費者アンケートにおいて、表示、パッケージやデザイン、触覚で識別できる方法、ふたやプルタブ、販売の場面、消費者の意識に関することなどが挙げられ、なかには標準化につながるものもあった。どのような方策が最適であるのか現段階では判断できないため、引き続き検討していきたい。

② 飲食店で提供されるアルコール飲料

飲食店では、メニューを分ける、グラスの形状をかえる、グラスに表示する、専用マドラーを差すなどの方策がとられていることがわかった。どのような方策が適切であるのか、標準化にふさわしいものであるのか現段階では判断できないため、引き続き調査し検討していきたい。

<今後の方針>

事業者や事業者団体への聞き取りや飲食店での誤飲防止の取り組みについて引き続き調査を行う。

以上

=====
本文書は経済産業省の令和6年度委託事業の成果です。
=====